

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">庄司 宏子【論文博士】 【比較文化学専攻 昭和62年度生】 (平成2年3月31日 単位修得退学)</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">アメリカスの文学的想像力：カリブからアメリカへ</p>	<p>本論文は、ポストコロニアリズムの批評理論に依拠しつつ、19世紀アメリカ文学に出現したさまざまなダブルの形象を、奴隷制度と植民地主義の暴力、およびそれらの記憶を共有する〈アメリカス〉の文脈で捉え、その地政学的空間で繰り広げられてきたアメリカとカリブとの歴史的、文化的交渉を前景化させつつ、両者が明暗の反転した〈一対〉として繋がる関係を考察し、そこにハイブリッドな文化的混淆体として、また文学・文化研究の領域として現前する〈アメリカス〉についての論考である。</p>
審査委員	(主査) 教授 戸谷 陽子	<p>第1回の審査委員会では、すでに389頁の学術図書として刊行された学術的な完成度の高い論文と評価されたが、一方で、中心となる反転の概念を説明するために導入されるTopsy-Turvy人形および挿入された図版についての説明が不十分であり、誤表記や議論の展開が不十分な箇所についてを含めこれらを修正し、また、対立概念を意識して各章を緊密に接続するよう文章を直すことが要求された。さらに、第2部第4章の沈黙した身体の変容についての議論は展開が不十分で説得力に欠けていることが指摘され、また、第4部第9章については、構成上の繋がりに無理があり、アメリカの自己形成という文脈で論文全体の中により整合的に位置づけるために加筆するか、または削除するかを検討するよう提案された。これを受けて改稿された原稿を審査委員全員で協議し、改稿により各章の繋がりが緊密になって改善されたことが確認された。しかし、Topsy-Turvy人形に現れる想像力とは誰のものか、その主体を明確にすること、パノプティコンの議論導入の説明および最終章の現代美術の言及に至る論理的な展開などがやや不十分とされ、これを受けて再改稿がなされた。これを再度審査し、論文の構成は詳述されたことで緊密になり、加筆により北側（白人）の想像力、シンパシーの周縁化等の論点と主張が明確になって、終章も本論では〈北〉の視点でとらえられていたものが、現代〈南〉の視点からどのように提示されているかという対比が明確になったことで、論文全体のまとまりと説得力が強化されたことが確認された。</p> <p>公開発表では上記の修正が活かされ、論文の論点・流れともに明快に説明され、また質疑応答も適切であった。最終審査では、提案・要求された改稿・修正が適切になされていることが確認された。</p> <p>以上のことから、本審査委員会は、博士（学術）Ph.D in American Literatureの学位にふさわしい論文であると判定し、合格とした。</p>
	准教授 清水 徹郎	
	准教授 高桑 晴子	
	教授 松崎 毅	
	教授 天野 知香	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ロ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">ハ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">ニ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	